



田中國夫教授

田中國夫教授記念号によせて

社会学部長 佐々木 薫

本学部の創設（1960年）以来33年間教鞭を取って来られた田中國夫先生が、この春ご定年よりも1年早く、追手門学院大学へ移られるため、本学を退職されることになりました。

先生は、1948年広島文理科大学教育学科心理学専攻をご卒業後、引続き同大学で副手、助手を勤められた後、1953年に神戸市外国語大学へ移られ、そして1960年4月関西学院大学社会学部の創設と同時に本学部助教授として着任されました。学部草創期にあって、社会心理学の教育・研究の体制づくりに尽力されるとともに、1965年度の学生主任を皮切りに学部の運営にも大いに力を発揮されました。特に1968年に始まったいわゆる学園紛争時に2度目の学生主任を敢えて引き受けられたのみならず、翌年には大学学生部長となられて紛争の最前線で重責を果たされ、さらに1970年1月からは学長付として紛争の収束に奔走されました。その後も2度目の学生部長（1973年4月-1974年7月）、大学評議会評議員（1990年4月-1992年3月）、学校法人関西学院評議員会評議員（1983年4月以降）などの要職を歴任されました。

このように学部、大学、学院の困難な時期に重要な役割を果たされながら、他方で多くの学問的業績をあげておられます。先生は広島文理科大学（現広島大学）の伝統を継いで早くから因子分析を用いた社会的態度の研究に従事され、「日本人の社会的態度」（誠信書房、1964）をまとめられました。先生のご研究は非常に幅広く、主なものだけでも、親の養育態度が子供の人格形成に及ぼす影響、若者や大学生の心理、地域におけるコミュニティづくりの問題、神戸市民の政治や選挙に対する態度の測定、兵庫県生活指標調査などに及び、他方で大学院生を指導して、態度と行動の関係、対人魅力、セルフモニタリング、孤独感などに関する数多くの研究成果をあげておられます。したがって、学会活動もきわめて活発で、日本心理学会、日本社会心理学会、日本グループ・ダイナミクス学会、関西心理学会の理事などを務められるほか、日本教育心理学会、日本応用心理学会、日本発達心理学会、人間・環境学会に所属して活躍しておられます。

先生はまた、教育にも大変熱心で、その講義は該博な知識を縦横に駆使した独特の語り口で受講生たちを魅了し、社会学部生のみならず、多くの他学部生を集めて、大教室はいつも盛況を呈しておりました。ゼミナールの運営についても集団としての連帯感を高め、かつ自発的学習を促進するように、社会心理学知見に基づく種々の配慮・工夫が施され、

成果をあげてられました。このようにして培われた連帯性が、学園紛争後の復興期に、卒業生による社会心理研究館の寄贈という形をとって結実したことは、すでに周知のことです。

このような数々のご功績に対し、大学は先生に名誉教授の称号をお贈りすることになりました。

先生のご退職は本学部にとって誠に残念なことでありますが、幸いにも4月以降も、新任校でのお忙しいスケジュールの中から時間を割いて、非常勤講師としてご来講いただくことになっております。先生の益々のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。